

たのしくあそぶ まちづくりを応援する情報誌「たむたむ」

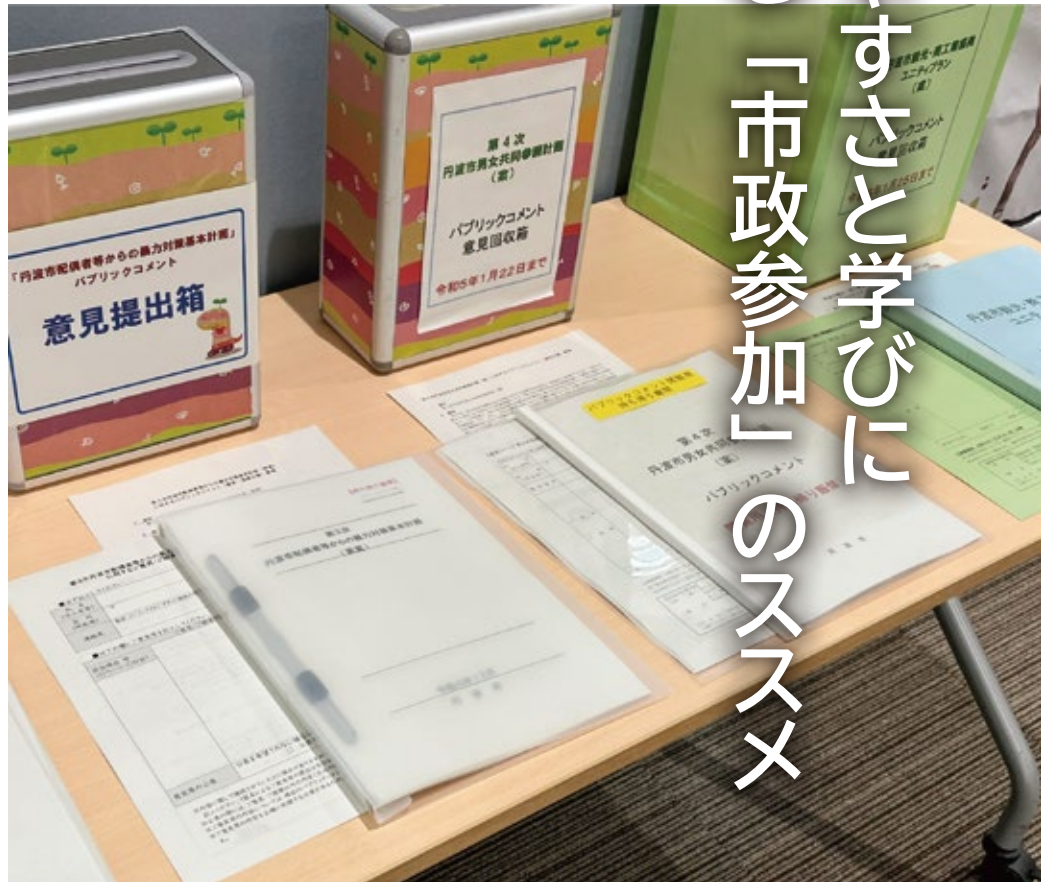
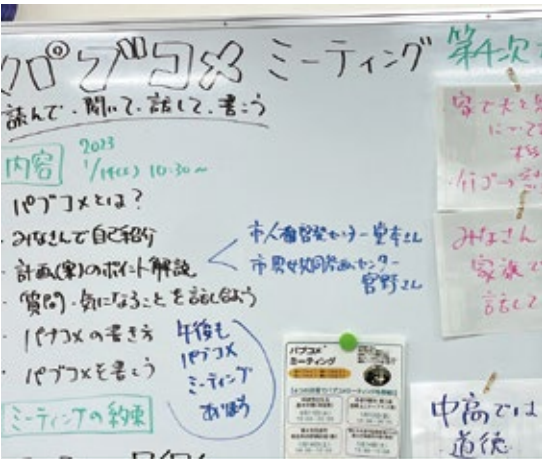
tam tam

2025.7
VOL. 35

丹波市市民活動支援センター



暮らしやすさと学びに
つながる
「市政参加」のススメ



特集

市政参加の機会を活用しよう

インタビュー

パブリックコメント普及協会
吉岡久恵さん

コラム

市民主体の
市政参加への取り組み

特集

市政参加の機会を活用しよう

この1年、首長や議員等、行政に関わる代表者を選ぶ機会が多くあり、政治について関心を持つ、考える方も多かったのではないのでしょうか。

行政は、私たち市民が暮らしたいまち・ありたい生活を実現するための機関であり、その行政運営を首長や議員を選挙で選ぶことによって、委ねています。

その意味で選挙は行政に参加する(※)最も重要な機会の1つですが、それ以外にも多様な機会が用意されています。特に最近では「対話」を重視したり、「DX」を活用したりして、より良い参加への配慮もされています。今号ではまちづくりにとって重要な市政参加の機会を活用し、まちと暮らしをより良くするためにできること、その意義について丹波市内の取組を中心に取り上げます。

※本特集では「市政参加」と表現します



市政参加とは

私たちは、暮らしていく上で必要な様々なことを行政に委ねて生活しています。まちによって行政に委ねるものに違いはありますが(例えば、行政による常設の消防本部がなく、消防団がその役割を担っているまちもある)、原則、法律や条例に基づき、税などを財源に様々な行政サービスが提供されています。私たちは選挙によって、その行政運営を任せる首長や行政運営を監視、予算や条例制定等の意思決定を委ねる議員を選んでいきます。

丹波市の最高規範である自治基本条例では「自治の基本原則」として、市民が自治の主体者であり、主権者として市政に参画することが掲げられ、また市政を含めまちづくりに参加、参画する権利を有していることが定められています。そして、市は政策の各段階において、市民の参加、参画がなされるよう配慮するとともに、誰もが意見を表明、参加できるように多様な手法を取ることに努めることが約束されています。



▲自治基本条例にはこのほか、市長、市議会、市民の責務や権利について大事なことが定められています。ぜひこの機会にご覧ください。

市政に参加する機会

市政に参加する機会といえば、選挙での投票、自治会長等を通じた要望、時折行政から案内がある住民アンケートなどを連想する方も多いのではないのでしょうか。実はそれら以外にも多くの行政では市民参加、参画のもと、市政を運営していくことと様々な機会が設けられ、いろいろな工夫が見られます。

では、丹波市ではどのような機会があるのでしょうか。以降では、特徴的な市政参加の機会をいくつかの事例と関係者の声とともに紹介していきます。

丹波市での DX による市政参加の特徴的な仕組み
「ふらっと*たんば」



オンラインで市民の思いやアイデアを丹波市政に届けることができるウェブサイト。過去には「広報たんば」のリニューアルにむけた意見やアイデアを募集し、実際にその意見も参考にリニューアルが行われました。

市民の意見を届ける・

対話・議論による市政参加

市民の意見を市政に届ける機会は丹波市でも様々に用意されています。そのいくつかを紹介します。

○行政計画や条例の審議を行う会議の公募委員

行政計画や条例等を審議する委員会には、有識者や住民代表等の委員だけでなく、市民が公募委員として参画することができます。これまで20以上の公募委員を務めてきた石塚和彦さん（山南地域在住）は、公募委員の経験を通し、「地域には多くの方が関わり、努力されていて、さまざまなことが密接に関わっていること、行政も市民のことを考え仕事をされていることなど市政と市職員の思いを知ることができた。委員会が発言し、考えることで自分も地域社会に参加し、ビズケット（微助っ人）の精神で地域活性化の一助ができればと思うようになった」と語っています。市政参加は行政に市民の考えを反映するだけでなく、市民自身の学びや生きがいにもつながる機会とも言えるのではないのでしょうか。



▶説明を聞くだけでなく意見交換が中心のパブコメミーティング

○行政計画や条例の案について市民意見を

募集するパブリックコメント

パブリックコメント（通称パブコメ）とは、行政が条例や市民生活に関わる行政計画（例総合計画、地域福祉計画等）などを制定する際に、その案を示し、広く市民等から意見を募集する手続きのことです。丹波

市ではパブコメの期間に合わせて、条例や行政計画案の説明、質問や参加者同士の意見交換を行い、パブコメを書くことができる通称パブコメミーティングを開催することもあります。

○市民ワークショップ

さまざまなテーマで市民が意見を出し合う市民ワークショップも最近では当たり前のようになっています。その中から新しい取り組みとして、第3次丹波市総合計画に基づき、市民の「しあわせ実感」を重視したまちづくりに向けて取り組んでいる「市民のしあわせ実感モニタリング」を紹介します。

これは、市の初めての試みとして無作為抽出により選ばれた市民がワークショップに参加、しあわせ実感と取組アイデアを語り合うというものです。ファシリテーター（話し合いの進行・聞き手）は市の若手職員が務め、終始和やかに、楽しく語り合う場になりました。市では、市民の意見を今後の市政運営に活かしていくとともに、市職員が直接市民の声に触れ、考える機会とし、計画期間中は毎年開催していく予定です。参加者の男性は「自分の考えを気持ちよく話すことができ、他の方の意見も聞くことができ、楽しかった」と話していました。多様な市民がお互いに尊重し合いながら、対話することがますます重要になっている中、市民、市職員いずれにも対話力、また対話を促す力が求められています。



▶6月末に初めて開催されたモニタリングには若者男女約20人が参加

インタビュー

パブリックコメント

普及協会

吉岡 久恵さん



パブコメの意義と対話型パブコメの普及に取り組み、第19回マニフェスト大賞「シティズンシップ部門優秀賞」を受賞されたパブリックコメント普及協会の吉岡久恵さんにパブコメの意義についてお聞きしました。

「パブコメがすぐに行政施策や計画に反映されることは少ないですが、行政担当者はパブコメ全てに目を通しており、その後の施策に活かされることもあります。また議員が審議の際に参考にすることもあります。市民にとっては意見を書くことで、市政を知る機会にもなり、行政にとっては行政計画案などの審議内容を市民に伝える機会にもなります。なお、同種の意見が大量に提出されるパブコメがニュースになることがあります。パブコメは署名と異なり数に意味があるものではなく、多様な視点から市民の意見を期待して実施されるものです。あなた自身の意見をパブコメに書くことがその後のまちづくりにつながるのです」。

議会を通じた市政参加

一般的に、市民は議員に市政運営のチェックや条例や予算などの意思決定を委ねる、つまり議会を通じて市民は市政に参加していると言えます。また必要があれば、市民が書面を通じて議会に対し、請願（議員の紹介があるもの）や陳情を行うことで、調査・審査の上、議会で採択されれば、その意見を行政に届けることもできます。丹波市議会ではこれらに加え、広報・広聴機能の充実と市政参加、主権者教育につなげる2つの特徴的な取り組みを実施しています。

○議員と「市民との意見交換会」

議会では議会基本条例に基づき「市民との意見交換会」を、毎年各地域で開催しています。会では冒頭に議会各委員会からの報告があり、その後は、議員がファシリテーターとして参加者との意見交換を進めます。会で出された意見やアイデアは議会できりまとめ、報告書として市長に届けられます。実際、会で市民から示された太陽光発電の環境調和に関する意見は「太陽光発電施設と地域環境との調和に関する条例制定」の一助にもなりました。

定期的に開催している他にも、市民5人以上が集まれば、議員との意見交換会が開催できる「井戸端スタイル」も令和5年度から試行実施しています（令和6年度は未実施）。「井戸端スタイル」は市民が自らテーマや日程を提案でき、それに合わせて複数議員が参加、意見交換を行うことから、より柔軟に市民が主体的に参加できる機会になっています。過去5回開催し、議会で課題整理をし、

その後の議会活動や市への政策提案につなげられています。

担当する議会広報広聴委員会の家田優樹委員長は「聞けなかった地域の声を聞く貴重な機会になっている。中立性を保ちながら、広聴の機会と市民と政策を考えていく機会両方が重要。今後より広く市民との対話の場を議会として大切にしていきたい」と今後の抱負を語っています。

○「丹波市議会☆ミライプロジェクト」

丹波市議会では、未来を担う若者の声を聴くため、また若者が市政への関心や参加意欲を高め、市議会に声を届けるきっかけになるよう、平成30年度から「丹波市議会☆ミライプロジェクト」を実施（第19回マニフェスト大賞「議会改革部門最優秀賞」）しています。

このプロジェクトは市内4校の高校生有志が、丹波市のまちづくりと課題について学び、考え、本会議場で議員に提案、その提案は議会各委員会で協議され、必要と考えられるものは市に伝達されます。例えば「投票所を増設し、若者が投票に行きやすいように」という提案を踏まえ、期日前投票所の商業施設内設置が検討されたこともあります。

丹波市議会の谷水雄一議長は「政策を立案するために時間をかけて調査・研究を行うことを通じて、参加された高校生の皆さんが丹波市の未来、市政を考える良い機会になれば幸いです。行政職に就いた参加者もおられるようです」と話されています。

コラム

市民主体の 市政参加への取り組み

市政参加には、市民が主体的に知り、考えることも重要です。昨年の丹波市長・市議会議員選挙では、丹波青年会議所などが主となり、TAMBA2030と銘打って立候補予定者公開アンケートや討論会を開催、延べ2,000人以上がその情報にアクセスしました。当時の丹波青年会議所の中西章生副理事長と前川祐司委員長は「これらをきっかけに若い世代が自然と選挙について話す機会になった。行政やまちについてそれぞれに思うことを考え、話し合う場を今後も広げていくことで市政への参加がより進むと感じている」とその感想を話されています。



▲公開討論会等に向けて、対話型で政策アイデアを考えたと

市政参加も、まちづくり

市政参加は行政をより良くする機会であるだけでなく、参加によって他者の考えや意見に触れたり、市職員や市議と出会うことで新たな学びや気付きを得られ、自分自身の暮らし方やよりよいまちづくりにむけた行動につながる機会でもあります。現在、丹波市でも様々な市政参加の機会が用意されています。関心をもって、その機会をつまく活用していきましょう。



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER
<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp
開館時間 10:00 - 18:00 (会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館